

資料ールシャ川

河川環境調査総括表

河川名： ルシャ川

調査年月日： 平成17年8月22日～27日

- 注1) 河川環境は、河口より高さ1mの天然の滝（魚止滝）までを整理した。
- 注2) 区間は、河川工作物、沢の分岐、魚止滝で区切っている（図面：河川工作物及び遡上環境の状況の工作物No、データ区分点を参照）。
- 注3) プールは工作物等下流の水深、広がり縦×横。 注4) 落差とは工作物等の流水面からプール水面までの高さ。
- 注5) 河床組成の①は礫なし、②は20cm以下の礫が主に混在、③は②以上の礫が主に混在、④は岩盤状を指しその占める割合を示す。

区間	区間長 (m)	工作物等落差 (m)	工作物下流側のプール(m)	工作物等越流水深 (m)	水面幅 (m)	河川水深 (m)	水温 (°C)	pH	河床組成 (%)	沈み石 (%)	河川形態(可児式)	スギゴケの有無	濁水の流入の有無	河畔林 (%)	枝沢の数	魚影を確認した魚種
河口～1(さけ・ます)	127				8	0.4	14.0	8.5	②80	0	Bb	無	無	10	0	カラフトマス・サクラマス
1(さけ・ます)～2(北海道)	244	0.42	0.7, 2.6*6.2	0.08	10	0.3	14.0	7.9	②80	0	Bb	無	無	30	0	カラフトマス・サクラマス・オショロコマ
2(北海道)～3(北海道)	51	0.30	3.1, 5.7*9.0	0.20	10	0.4	14.0	8.0	②80	0	Bb	無	無	60	0	カラフトマス・サクラマス・オショロコマ
3(北海道)～4(北海道)	52	0.34	1.5, 9.6*15.7	0.15	9	0.3	14.0	8.1	②80	0	Bb	無	無	70	0	カラフトマス・サクラマス・オショロコマ
4(北海道)～A	300	0.59	1.6, 11.9*11.1	0.14	10	0.4	14.0	8.1	②80	0	Bb	無	無	90	0	カラフトマス・サクラマス

## 土砂動態調査総括表

河川名：                      **ルシャ川**

注1) 土砂動態は流域全域を整理した。

注2) 区間は、河川工作物、沢の分岐、魚止滝で区切っている。

区間は、別添の図面（河川工作物及び遡上環境の状況）内の工作物No. データ区分点を参照する。

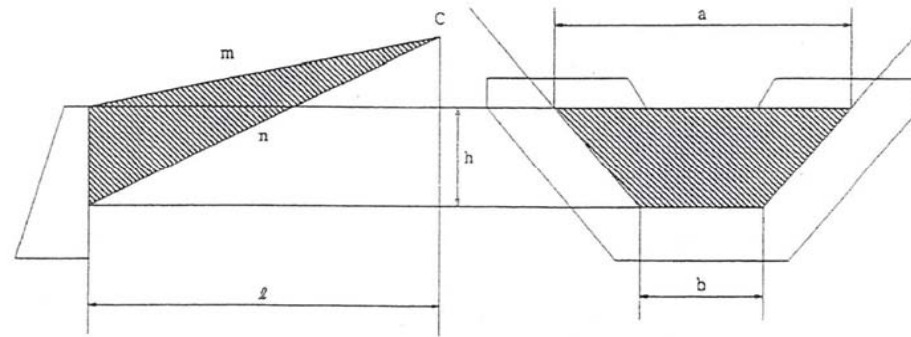
注3) 山腹内滞留土砂は、崩壊下部の崩落土砂の溜り等の土量である。

区間	区間長 (m)	山腹土砂生産源						溪流内滞留土砂(m <sup>3</sup> )	
		山腹崩壊地			特殊荒廃地		復旧崩壊地		
		個数	面積(ha)	山腹内滞留土砂量(m <sup>3</sup> /d)	個数	面積(ha)	個数		面積(ha)
河口～1(さけ・ます)	127								
1(さけ・ます)～2(北海道)	244	1	0.05						
2(北海道)～3(北海道)	51								
3(北海道)～4(北海道)	52								
4(北海道)～A	300	19	4.65			30	10.19	24,800	
計	774	20	4.70			30	10.19	24,800	

推定貯砂量計算式

$$V = \frac{l}{6} \cdot \frac{h^2}{n-m} \cdot (a+b+c) \cdot \alpha$$

- V : 推定貯砂量  
 h : 治山ダム有効高  
 a : 放水路部の有効幅  
 b : 溪床部有効幅  
 c : 堆砂区域末端の溪床幅  
 $\alpha$  : 割増係数 (ポケットの状態では1.0~1.5)  
 l : 堆砂区域長  
 n : 現溪床勾配  
 m : 計画勾配



ルシャ川														
因子		北海道											計	
		No2	No3	No4										
放水路部有効幅 (m)	a	143	148	151										
溪床部有効幅 (m)	b	141	146	149										
堆砂区域末端の溪床幅 (m)	c	146	149	149										
ダム設置前の溪床勾配	n	0.029	0.029	0.021										
堆砂勾配	m	0.02	0.006	0.006										
ダム有効高 (m)	h	1.0	1.0	1.0										
割増係数	$\alpha$	1	1	1										
貯砂量 (m <sup>3</sup> )	V	7,963	3,210	4,989										16,162